インフォメーション

くまもとアートポリスにまつわるエピソード、プロジェクト周辺の話題などを本誌上で取り上げていきます。読者の皆様のご寄稿をお待ちしています。またくまもとアートポリスに関するご意見、ご感想もお寄せ下さい。

くまもとアートポリスの活動を応援する。

アドバイザー委員会の活動を紹介します。

第二期に入ったくまもとアートポリス。第一期に計画された建築はほとんどが出来上がりました。いまではプロジェクトもたくさんの人によって住まわれたり、使われたりしています。普段建築に関心を持つことのない一般県民も、これらの建物に触れたり、ニュースや噂を耳にする機会が多くなりました。

それでもアートポリスを「芸術的な建築」をつくる建設事業だから自分には関係のない、あるいはアートポリスは建築専門家には評価が高いが、よくわからない、といった声を聞くことがあります。

くまもとアートポリスは単なる建設事業ではありません。すぐれた建築、いいかえれば文化的な資産としての建築を県内に増やし、広げていこうという、「文化」づくりの事業なのです。

たとえば、アートポリスの建築にこめられた価値や意図を理解し、それをより高める使い方をする。あるいは、アートポリスの建物に限らず、古い建築や環境やまちなみの良さを理解し、大切にし、永く後世に継承していく。

こうした普段の生活のなかで建築や環境を考えることが、アートポリス事業のもうひとつの目的であり、文化事業であるとする所以です。

このようなアートポリス事業の目的や意図が県民に浸透することをめざして、くまもとアートポリスの推進組織としてあらたにアドバイザー委員会が設置されました。

熊本県内のマスコミ・学識経験者などを中心メンバーとするこの委員会は、堀内清治熊本工業大学教授が務めるくまもとアートポリス・アドバイザーを核に、市民の側、使う側などさまざまな立場の人々が意見を出し、議論し、応援していこうというものです。

委員会では、具体的なアートポリス事業の進捗について、またアートポリス事業に参加する建築をもっと広めることの工夫や技術的なことも話し合われますが、たとえば「建築文化をどのように一般市民に広めていったらいいか？」というような内容、また、「建築文化について一杯飲みながら話せるアートクラブのような場所が欲しい」という意見が出されたりしています。

このような意見や議論はアートポリス事業にフィードバックされ、事業をさらに広がりのあるものにすることが期待されています。

KAPはいろんな賞を受賞しています。

アートポリスがいままでに受賞した数々の賞をまとめました。

1990年　**グッドトイレ10**
熊本市花畑パークトイレ（受賞者：熊本市／設計：大塚豊一）

1991年　**全国警察施設設計コンクール企画賞**
熊本北警察署（受賞者：熊本県警察本部／設計：篠原一男＋太宏設計事務所）
公共の色彩賞・環境色彩10選
熊本市花畑パークトイレ（受賞者：大塚豊一／設計：大塚豊一）

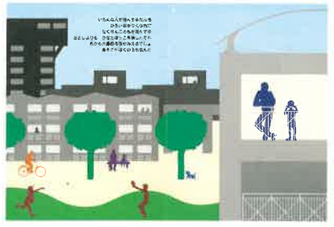
1992年　**毎日芸術賞**
八代市立博物館未来の森ミュージアム（受賞者：伊東豊雄／設計：伊東豊雄）
全建賞
熊本県営帯山A団地（受賞者：熊本県／設計：新納至門）
新日本建築家協会新人賞
再春館レディースレジデンス（受賞者：妹島和世／設計：妹島和世）
グッドトイレ10
TOTO AQUQPIT ASO（受賞者：熊本県／設計：木島安史）

1993年　**日本建築学会文化賞**
くまもとアートポリス事業（受賞者：熊本県）
第34回建築業協会賞
八代市立博物館未来の森ミュージアム（受賞者：八代市・伊東豊雄・竹中工務店＋和久田建設＋米本工務店／設計：伊東豊雄）
第1回アーキテクチュア・オブ・ザ・イヤー
熊本北警察署（受賞者：篠原一男／設計：篠原一男）
八代市立博物館未来の森ミュージアム（受賞者：伊東豊雄／設計：伊東豊雄）
熊本市営新地団地A（受賞者：早川邦彦／設計：早川邦彦）
1993年度日本文化デザイン賞
くまもとアートポリス（受賞者：磯崎新／コミッショナー：磯崎新）
いらか賞
清和文楽館（受賞者：石井和紘／設計：石井和紘）

くまもとアートポリスニュースのこども版が出来ました。

事務局発行の本誌ではじめて「こども版」を発行いたしました。これは、アートポリスの建築環境をこどもたちにも伝えたい、楽しんで欲しいという気持ちから生まれたものです。

この絵本は、こどもの生活にあらわれるくまもとアートポリス建築のガイドブックにもなっています。



くまもとアートポリスニュース

13号

熊本市営新地団地C　設計：富永譲　撮影：石丸捷一

●「くまもとアートポリス・シンポジウム in 牛深」報告
●完成・進行プロジェクト特集

K·A·P

くまもとアートポリスニュース第13号
1994年3月発行
●発行――くまもとアートポリス事務局
熊本県土木部建築課内　熊本市水前寺 6-18-1
tel 096-383-1111 (内線6215)
fax 096-384-9820
●編集――くまもとアートポリスコミッショナー事務局
東京都渋谷区渋谷2-4-7 YK青山ビル
建築・都市ワークショップ内
tel 03-3407-4753　fax 03-3407-8753

「くまもとアートポリス・シンポジウムin牛深」報告

熊本県内各地で開催されるくまもとアートポリス・シンポジウム。今年、第６回目はレンゾ・ピアノ氏らによる牛深連絡橋、内藤廣氏による牛深水産観光センターなど、アートポリスプロジェクトが動き始めている牛深市で2月4日に開催された。市内・市外とも600名、合計1,200名を越える参加者を数えた。会場は牛深市の中心にある牛深市総合センター。

牛深は豊かな自然に囲まれ、漁港の活気溢れる街。そこに出来上がるこのふたつのプロジェクトを新しいまちづくりの核にしようとしている。その方法やアイディアをさまざまな視点から考えていこうというのが今回のテーマである。

アートポリス・プロジェクトの建築家である岡部憲明、内藤廣、伊東豊雄の3氏、そして牛深でまちづくりを行なう上川肇氏、熊本市でさまざまな文筆活動を行なう姜信子氏らがパネリストとして参加、ふたつのプロジェクト紹介を皮切りに、「まちづくり」「プログラム」「建築の感性」について活発に意見を交換した。ここにその詳細をレポートしよう。

また、シンポジウムに併せて、実際に計画が進行する牛深のプロジェクト2つの模型展示を中心に、アートポリス・プロジェクトのパネル展示、熊本市内発、牛深までのアートポリス・バスツアーなども開催された。

日時：1994年2月4日（金）
会場：牛深市総合センター
参加者：約1,200人
挨拶：**福島譲二**（熊本県知事）代理、**三井康壽**（建設省住宅局長）代理、**西村武典**（牛深市長）
第１部　プロジェクト紹介
岡部憲明(牛深漁港連絡橋担当建築家)
「風景の中の橋、風土の中の街―牛深漁港連絡橋とランドスケープのデザイン」
内藤廣(牛深水産観光センター担当建築家)
「建築の果たす役割について」
第2部パネルディスカッション
パネリスト：岡部憲明、内藤廣、姜信子、上川肇、コーディネーター：伊東豊雄

シンポジウムの会場は開演前から席に座りきれないほどの参加者を得て熱気に包まれていた。長いドライブによって会場に駆け付けた市外からの参加者、学生服姿の高校生、そして何よりも多数のゲストを迎えた牛深の市民の興奮が、熱気を高めていたようだ。

主催者、来賓の挨拶に続いて牛深市長は「ふたつのプロジェクトの成功が、21世紀の牛深市の姿を大きく左右する」と期待と決意を述べた。

続いて岡部、内藤両建築家によるプロジェクトのプレゼンテーションと解説。牛深市民もプロジェクトへの関心は高いが、その詳細を知るのは初めてである。公共プロジェクトを建築家自身が市民の前で公開プレゼンテーションを行なう機会はめずらしい。一般にもわかりやすい説明が行なわれた。

「牛深架橋連絡橋」担当建築家・岡部憲明氏の講演

岡部氏はレンゾ・ピアノ、ピーター・ライス（故人）両氏と共に牛深に初めて訪れたときの経験から話を始めた。

牛深の印象は「繊細な風景」のなかにある街。海と山に囲まれ、街なみ自体は小さなスケール感で整っていると感じたという。このような中に東京や大阪の街中を通り抜ける高速道路のような構築物を持ち込むことはできない。

牛深漁港連絡橋のような大規模な橋は、土木的な感覚では斜張橋（吊り構造の橋）の構造形式が取られることが多い。東京港や横浜港の橋がこれで、現代の構造技術を誇らしげに表現している。でも、このようなモニュメントは牛深には相応しくない。牛深では風景に馴染むような親しみやすいものにしようという合意が持たれた。

そこで橋の構造形式としては単純な桁梁で、なるべく少ない柱を均等に建てながら、もっとも単純な橋を渡すことにした。「海の上に浮かんだ大通り」を通そうというのが、この橋の考え方である。つまり山が迫る牛深の街中を、大きなトラックが通過せずにバイパスさせようという構想であり、そのことを素直に表現したものだ。

この構造形式は風によって橋が揺れないようにエアロダイナミックス（流体／空気力学）を考えることが重要である。そこで風洞実験などを繰り返しながら、飛行機の翼のような断面がデザインされた。橋の底部円形の、歩道を包み込むような断面形のフラップ（風避け板）はカーボンファイバー・コンクリートでつくられ、太陽の光を反射してキラキラと光る。このような視覚的な工夫が、巨大な建物を人間的なスケールに近づけていく鍵である。

岡部氏は最後にイタリアの自然の中にある街や中世の都市広場のスライドを映し、それらの場所でいかに視覚的な工夫が日常的な生活の中で実現され、融合させられているかを説明した。そして、自分の住んでいる家の内部だけではなく、外部も大切にし、少しずつアクティビティを積み重ねていくことで、建築にも潤いを与えていくことが重要である、と結んだ。

牛深水産観光センター担当建築家・内藤廣氏の講演

街のシンボルになる連絡橋と生活をどのように繋げていくか、これが自分の建築の大きな目標である―内藤廣氏はこう話を始めた。

「元気のでる」プロジェクト、外からきた人が牛深を知るだけではなく、「牛深の人も一緒に遊べる」プロジェクトにしようと考えた。港の水揚げ場のような、壁はなく吹きさらしの大きな屋根を架けて、その下にさまざまなアクティビティを配置する。つまり博物館や、港の生活を体験できるような生きた魚が見られる水槽や水産加工場をつくる。これが水産観光センターのコンセプトとプログラムである。

このような建築、あるいは「場」をつくって人間や街並とダイレクトな関係をつくっていきたい。内藤氏は最近作「海の博物館」のスライドを紹介し、建築が出来上がってはじめてそこの住民が利用するだけでなく、建築をつくる過程でも、地域の生活の営みを汲み入れるという積極的な関わり方を、建築家はするべきである、という。牛深にこれから建てられる水産観光センターについても、どういう風にして使っていくか、牛深の人々にも考えて欲しいとプロジェクトへの参加を促した。

シンポジウム

建築家のプレゼンテーションに続いて、建築専門家以外のパネリストからの意見がでた。

まず姜氏が「アートポリスは人を動かすシステムではないかと思う。建築家を動かし、シンポジウムのように、これを聞きに来る人を動かすシステムではないだろうか。このような運動は大事である。

ところが建築家のサークルの中で議論されていることが、住民や外にいる市民にはあまり伝わってこない。もっと工夫が必要だ。また、実際に建築の設計に取り掛かるときに地元の人とどのようなコミュニケーションが持たれるのか、知りたい」

岡部氏は文化施設をつくったときの体験を話し、住民、利用者の要望の尊重と共に、プログラムづくりが重要であることを強調する。

「フランスでは、たとえばポンピドゥー・センターを設計するに当たっては、一般市民と、あらゆるジャンルの専門家グループが５年をかけて意見を出し、研究を重ねた。建築家がこれから設計を進めるためのプログラムを事前につくるのである。日本ではプログラム化の段階でさまざまなジャンルの意見を取り入れることに、あまり積極的ではないのではないか。」

一方、内藤氏は街づくりのなか、文化としての建築は長い時間をかけてつくる必要があると語る。

「建築をまとめるのはあまり短い時間でやらないほうがいい。そして実際に建物を使う人が、一緒に関われるものでなくてはいけない。プログラムについては、今の人に満足させるだけでは不十分。長い時間の中で、たとえば子供の代まで価値を持ち続ける建物でなくてはならないと思う。」

上川氏は街づくり運動の経験から、そして地元の立場から、家族ぐるみでの参加を呼びかけた。

「ハイヤを含めた牛深の自然環境を考えていかなくてはならない。所属している街づくりグループで牛深の将来図を描いた。連絡橋を渡ってハイヤ祭りを行なうなどのプランである。街づくりには子供の代までをも含めた層の厚さが大事だ。」

伊東氏はくまもとアートポリス事業が地域にとって街づくりの刺激剤になりえることを強調し、次のようにシンポジウムを結んだ。

「日本の公共建築はアートポリス方式によって、企画や設計の段階で一般の人にもオープンな形ですすめられるようになってきた。若い世代の建築家に設計のチャンスが回ってくるようにもなった。牛深がアートポリス・プロジェクトを受け入れているということは重要である。地域を考えることは古いものにこだわる方向に流れ、新しいものを排除する方向に流れることが多いが、このような機会を使って疑問を解消し、新しいものをどんどん受け入れていただきたい。」

伊東氏のしめくくりの後、会場から質問が出、応答があった。

「建築家の感性について。建築的な感性を磨くのはどうしたらいいのか？」と言う質問に答えて岡部氏。

「牛深の自然がすばらしければ感性は自然に磨かれる。良い建物の中にいれば感性は磨かれるし、良い街にいれば良い感性が磨かれるはずだ。」

さらに「連絡橋の地盤は大丈夫？」「トイレについての構想は？」などについても、質疑応答がなされ、地盤については岡部氏から「地盤については基礎工事がいちばん大事。この牛深連絡橋は橋梁の専門家が入って、詳しく地盤を調べたうえでそれにふさわしい基礎工事をしている。」

一方内藤氏はトイレについて「都市で暮らしている人間はわりとトイレに関して贅沢をしている。観光ということで考えると、特にトイレをきれいにしないとイメージが上がらない。牛深全体にそういう施設がまだ足りないので、そういう物のサンプルになるものを今回つくることができたらと思っている。」とそれぞれの回答があった。

シンポジウム・パネリストのプロフィール

おかべのりあき／建築家／1947年静岡県生まれ／1971年早稲田大学建築学科卒業／1973年フランス政府給費留学生として渡仏／1974年ピアノ＆ロジャーズ／1977年レンゾ・ピアノと協働／1981年パリ・オフィスのチーフアーキテクト／1989年レンゾ・ピアノ・ビルディング・ワークショップ・ジャパン代表●主な作品「ポンピドゥー・センター」「IBM移動展示パビリオン」「シュルンベルジェ社再開発」「ベルシー・ショッピングセンター」「関西国際空港旅客ターミナルビル」

ないとうひろし／建築家／1950年神奈川県生まれ／1974年早稲田大学卒業／1976年同大学院修了／1976-78年フェルナンド・イゲーラス建築設計事務所／1979-81年菊竹清訓建築設計事務所／1981年内藤廣建築設計事務所設立●主な作品「オートポリス・アート・ミュージアム」「海の博物館」●1992年芸術選奨文部大臣新人賞／1993年日本建築学会賞

きょうのぶこ／ノンフィクション・ライター／1961年神奈川県生まれ／東京大学法学部卒業／1989-91年韓国大田市へ渡韓／1991年帰国●主な活動：熊本日日新聞「姜信子のふつうの眼鏡」、韓国女性誌「ラベル」にエッセイ執筆中。また、エフエム中九州「ラジオDo」パーソナリティとしても活躍中

かみかわはじめ／1960年熊本県生まれ／1979年熊本県立牛深高等学校卒業／1979年石本印刷所勤務●主な活動「LOVE THE EARTH 21うしぶか」（環境問題グループ）副会長、「未来ぐるーぷうしぶか」（まちづくりグループ）会員、「うしぶかグッズ開発研究会」会員●「未来ぐるーぷうしぶか」では昨年度まで事務局長をつとめるなど、牛深の街づくりに積極的に取り組んでいる

いとうとよお／建築家／1941年ソウル生まれ／1965年東京大学工学部建築学科卒業／1965-69年菊竹清訓建築設計事務所／1971年伊東豊雄建築設計事務所設立●主な作品「中野本町の家」「シルバーハット」「横浜風の塔」「八代市立博物館未来の森ミュージアム」●1984年日本建築家協会新人賞／1986年日本建築学会賞／1990年村野藤吾賞／1991年毎日芸術賞

牛深の街に建設が進むプロジェクト2題

牛深漁港連絡橋（仮称）

Ushibuka Bridge（仮称）

設計者　レンゾ・ピアノ＋ピーター・ライス＋岡部憲明＋マエダ
所在地　牛深市

この橋は「海の上の大通り」である。牛深の自然の風景のなかに溶け込む一本の連続した橋は、可能なかぎり少ない数の橋脚で支持され、上部本体の部分は、できるかぎり小さく見えるよう工夫されている。
車道の両側の歩道は車道面と段差があり、車から保護されると同時に、車からは風景が楽しめる。歩道の部分には「風避け板」がつき、風の抵抗から歩道を歩いている人を守り、同時に橋自体も風で揺れないよう工夫されている。

●データ

所在地	牛深市
主要用途	臨港道路
建築主	熊本県
施工者	若築建設＋大和建設JV、五洋建設＋北時建設JV、佐伯建設工業＋牛深建設JV、横河ブリッジ、日立造船
橋長	883m
橋幅	車道7.0m～11.4m歩道2.5m×2
桁高	4.8m
構造	7径間連続網床版箱桁
工事期間	1991年10月～1997年

（上）セクション模型（撮影：田中昌彦）（下）ランドスケープ・ドローイング

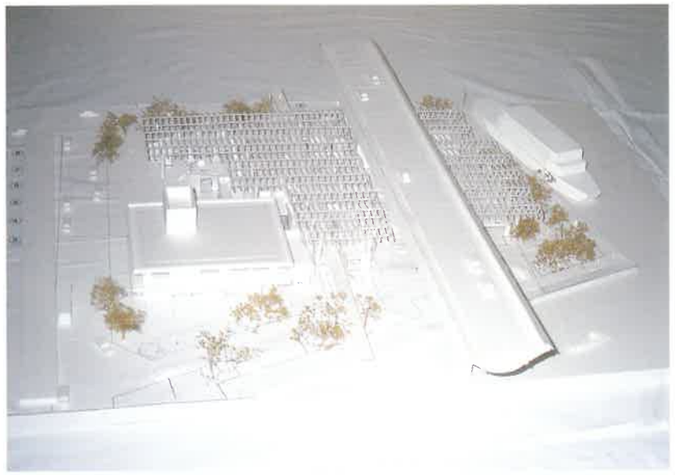
左から、レンゾ・ピアノ、ピーター・ライス、岡部憲明各氏

●レンゾ・ピアノ
1937年　イタリア・ジェノバ生まれ
1964年　ミラノ工科大学建築学部卒業（フランコ・アルビーノ、ルイス・カーンに師事）
1971年　リチャード・ロジャーズと協働
1977年　ピーター・ライスと協働
1980年　ビルディング・ワークショップ設立（ジェノバ、パリ、大阪を拠点に活動）
主な作品
「ポンピドー・センター」「メニル・コレクション美術館」「IBM移動展示パビリオン」「パリ・フットボールスタジアム」「関西国際空港旅客ターミナルビル」
1981年　「黄金のコンパス」賞
1984年　レジョン・ドヌール勲章
1989年　RIBAゴールドメダル
●ピーター・ライス
1935年　アイルランド生まれ
1956年　BSCクイーン大学卒業
オーブ・アラップ&パートナーズ入所
オーブ・アラップ&パートナーズ社ディレクター
1992年　死去
主な作品
「シドニーオペラハウス」「ポンピドー・センター」「メニル・コレクション美術館」「IBM移動展示パビリオン」「関西国際空港旅客ターミナルビル」
1992年　RIBAゴールドメダル
●岡部憲明（おかべのりあき）前頁参照
●株式会社マエダ（東京都、担当九州支店：福岡市）
代表者：前田哲郎
主な作品
「新桜木吊橋：あやとりの橋（熊本県泉村）」「梅の木轟橋（熊本県泉村）」「第一北上川橋梁（岩手県）」「川口駅周辺再開発計画（埼玉県）」
1988年　日本土木学会田中賞、欧州ブルネル賞

牛深水産観光センター（仮称）

Ushibuka Wharf（仮称）

設計者　内藤廣
所在地　牛深市牛深町



スタディ模型

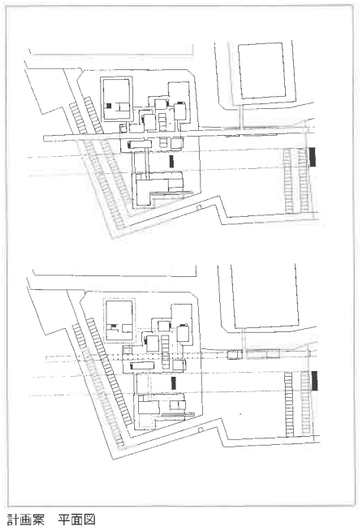
地域活性化を目的とする物産センター、レストランなどを中心とする複合施設の計画である。牛深漁港連絡橋のたもとに、この建築の敷地がある。
このような条件に対して設計者は、次の目標を立てた。橋の土木的スケールを人間のスケールにつなぐ建築であること。この施設が、今後この湾の景観構成の基本形になること。厳しい自然条件に対して、長期的に十分な性能を有していること。施設内容として、人を集めるため、従来の企画の枠を破って斬新な内容であること。将来、こうした内容を自由に展開できることなどである。
建築の構造はPCの独立柱と梁を設け、その上に集成材で屋根を構成する方法とっている。PC梁による長い桁行、木造の軽い屋根の組み合わせは、開放的で広場的な内部空間をつくることだろう。

●データ

主な用途	新築部：物品販売、展示、待合室、レストラン 改築部：展示、視聴覚室、倉庫、事務室
事業主体	牛深市
構造設計	構造設計集団（SDG）
設備設計	明野設備研究所
面積予定	敷地10,787m2／建築2,467m2（新築部）、611m2（改築部）／延床面積3,189m2（新築部）、1,050m2（改築部）
階数	地上2階
高さ	10.35m
構造	鉄筋コンクリート造+PCコンクリート造+集成材木造トラス
主な仕上	屋根：着色スレート葺、／外壁：アクリル系エマルジョン吹付塗装、一部コンクリート打放し（杉型枠）、杉板張り 床：磁器質タイル、玉石洗い出し、縁甲板／壁・天井：コンクリート打放し、一部杉板張り
工事期間	1994年度～1996年度

内藤廣（ないとうひろし）

プロフィールは3頁参照



計画案　平面図

完成・進行プロジェクト紹介

熊本市営新地団地C

Shinchi Public Housing Complex Block C

設計者　富永譲
所在地　熊本市清水町新地

緩やかな斜面に計画されたこの団地は、新地団地A・Bと同様、都市的なスケールの長大なファサードを持つ。東西1Kmにおよぶ細長く広大な敷地を持つ新地団地の中央に位置し、西地区と東地区を結び付けるように住棟の途中で屈曲している。この団地では、都市に残された数少ないまとまった敷地を地域に開放し、街づくりの拠点にするための工夫がなされている。

（上）1階ピロティ部分（下）北側全景　撮影：石丸捷一

●交通
電鉄バス（新地団地行）→新地団地下車
¥340／約40分

●見学の注意
見学は外観のみに限定。
写真撮影は団地居住者の迷惑にならないように注意。

●データ

主な用途	集合住宅
事業主体	熊本市
構造設計	松井源吾＋ORS事務所
設備設計	彦坂満洲男（郷設計研究所）
施工	建築：水上建設＋マコト建設＋井出工務店＋中九州建設JV 電気：東邦電気工業、西鉄電設工業 衛生：三祐工業、飯塚電機工業 ガス：西部ガス 植栽：武蔵造園
面積	敷地12,555.50m2／建築3,421.91m2 ／延床17,877.88m2
規模	地下1階、地上7階
構造	鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造
主な仕上	屋根：シート防水／外壁：磁器タイル、リシン吹付け／床：桧集成縁甲板
工事期間	1991年12月～1993年10月

富永譲（とみながゆずる）

1943年　台湾台北生まれ
1967年　東京大学工学部建築学科卒業
　　菊竹清訓建築設計事務所
1973年　東京大学工学部建築学科助手
1979年　富永譲＋フォルムシステム設計研究所設立
主な作品
「奈良シルクロード博飛火野会場」「警視庁駒込警察署上富士前派出所」「早稲田ゼミナール所沢校」「川崎市大山街道ふるさと館」

長いファサードはランドスケープと一体化している

県営竜蛇平団地

Ryujabira Public Housing

設計者　元倉眞琴
所在地　熊本市帯山3-1

くまもとアートポリスの集合住宅シリーズ。公道に面して長く続くファサードは、街の通りの雰囲気を大きくかえた。
不整形な敷地に対して新しい住棟タイプが開発された。広いテラスを積み重ねた段状タイプと、ピロティによって直接街路に接することのできる街区タイプである。２つの住棟タイプに挟まれて中庭がつくられた、全ての住戸にはこの中庭を介してアプローチする。

（上）公道側よりのぞむ（下）中庭より第二期工区を見る　撮影：石丸捷一

●交通
市営バス（日赤：長嶺団地行）→東水前寺下車¥220／約30分
産交バス（武蔵ヶ丘行／大津行）いずれも東バイパス経由→東水前寺¥220／約30分

●見学の注意
見学は外観のみに限定。
写真撮影は団地居住者の迷惑にならないように注意。

●データ

主な用途	集合住宅
事業主体	熊本県
構造設計	SIGLO建築構造事務所
設備設計	松田勉（熊本設備設計事務所）
施工	建築：中満組、水上建設 電気：不二電気工業、三和電気 土木工業、稲田 電気設備 衛生：日産設備工業、第一機工、蘇陽施設産業 ガス：西部ガス 植栽：千花園、いづの造園、岩下りんどう園、梅荘園
面積	敷地8,498m2／建築2,495m2／延床6,511m2
規模	地上３、５ 階
構造	鉄筋コンクリート造
主な仕上	屋根：露出アスファルト防水砂付ルーフィング／外壁：コンクリート打放アクリルカラークリア吹付け、シリカペイント塗り 床：ナラフローリング／壁・天井：コンクリートパテシゴキEP／硬質ウレタンフォーム打込の上パーライト吹付け
工事期間	1991年10月～1994年2月

元倉眞琴（もとくらまこと）

1946年　東京生まれ
1969年　東京芸術大学美術学部建築科卒業
1971年　同大学大学院修了
　　槇総合計画事務所
1980年　スタジオ建築計画設立
主な作品
「ヒルサイドテラス・アネックス」「池上の集合住宅」
「NOEビル」「ベルコリーヌ南大沢ガリバーA棟・B棟」

通りの雰囲気が明るくなった

まちおこしの核ができた

花の温泉館

Ubuyama Greenhouse Spa

設計者　ワークショップ
所在地　阿蘇郡産山村

温泉を中心としたコミュニティセンター。豊かに湧きでる水、高原の冷涼な気候、温泉熱、太陽熱などの豊かな自然環境を利用し、園芸作物、特産物の販売、温泉、レストラン、工房などを備えている。

（上）アプローチ　撮影：石丸捷一

●交通
車での見学をお薦めします。（熊本市内から約90分）

●データ

主な用途	温泉センター、レストハウス
事業主体	産山村
構造設計	構造計画プラスワン
設備設計	彦坂満州男（郷設計研究所）
施工者	建築：佐藤工務店／電気、空調、衛生：日産設備工業／浄化槽：ダイキ／外構：佐伯造園、岩下りんどう園
面積	敷地11,523m2／建築1,722m2／延床面積1,739m2
規模	地下1階、地上1階
高さ	6.13m
構造	鉄骨造、鉄筋コンクリート造
主な仕上	屋根：透明ガラス、折板歴青系厚膜型重防食塗装／外壁：透明ガラス、ガルバリウム鋼板 床：モルタル金ゴテ／壁・天井：透明ガラス
工事期間	1991年11月～1993年11月

いよいよ完成

熊本市営託麻団地

Takuma Public Housing Complex

設計者　坂本一成＋長谷川逸子＋松永安光
所在地　熊本市西原３丁目２番

大規模な集合住宅シリーズ。坂本一成、長谷川逸子、松永安光各氏によるこの団地は、第三期の工期を経て完成となる。

（上）通路より坂本棟をのぞむ　撮影：石丸捷一

●交通
産交バス（一本木行／木山産交行／小山駐車場行）→託麻団地入口下車徒歩5分¥330／約40分・（武蔵ヶ丘行／大津行）いずれも東バイパス経由→下南部入口下車徒歩10分¥350／約40分

●データ

主な用途	集合住宅
事業主体	熊本市
（坂本一成棟）	
構造設計	団設計同人
設備設計	彦坂満州男（郷設計研究所）
施工	建築：光進建設＋藤建設JV、木村建設＋サンホームJV、神園建設／電気：松本電設社、佐電工、春日電気／衛生：ダンレイ、第一機工、技研工業
面積	建築2,976.59m2／延床10,184.14m2
構造	壁式鉄筋コンクリート造（ボイドスラブ工法）
（長谷川逸子棟）	
構造設計	梅沢建築構造研究所
設備設計	彦坂満州男（郷設計研究所）
施工	建築：光進建設＋藤建設JV、酒井建設工業、小田建設／電気：山陽電機工業、沖電気工事、福田防災工業／衛生：明誠設備、リュウ設備工業、栄宏設備工業
面積	建築2,780.02m2／延床9,222.93m2
構造	壁式鉄筋コンクリート造
（松永安光棟）	
構造設計	松本構造設計室
設備設計	彦坂満州男（郷設計研究所）
施工	建築：サンエー建設＋杉山建設JV、木村建設＋サンホームJV、富重建設／電気：竹市電興社、滝川電気＋浦上電設JV、西部工業／衛生：熊本電機設備、広誠設備工業、西山商会
面積	建築2,344.30m2／延床9,379.01m2
構造	壁式鉄筋コンクリート造
全工事期間	1990年12月～1994年4月

建設がすすむ天草観光のインフォメーションセンター

天草ビジターセンター・天草展望休憩所

Amakusa Visitors' Centre ・Service House

設計者　古谷誠章＋中川建築設計事務所
所在地　天草郡松島町永浦島

（上）スタディ模型

国立公園である天草の自然や風土を展示するビジターセンターと、無料休憩所のふたつの建物からなっている。計画に先立って行なわれた土地造成によって削り取られた稜線を、棟ラインが復元している。
また、尾根の軸線とは別に、矩形平面の基本軸を敷地に対して素直に取ったため、屋根方向と平面にズレが生じた。これを利用して２棟が連続した形態を保ちつつ、ビジターセンターでは高い天井、サービスハウスでは海側に広く張出た空間をとるようにした。館内の展示は、ほとんどが床にじかに置かれるか、埋め込まれていて、垂直のパネルなどで視界を遮ることのないよう配慮している。（古谷誠章）

●データ

主な用途	博物展示施設、無料休憩所
事業主体	ビジターセンター：熊本県 展望休憩所：松島町
構造設計	裕建築事務所
設備設計	弦設備設計事務所、小路設備設計事務所
施工	建築：山口工務店、渡辺建設 電気：鶴電気設備工業所、西本電機 衛生：天草設備、西山電設 空調：西本電機 浄化槽：ニッシン工業
面積	敷地11,410.50m2／建築497.16m2（VC）、263.97m2（SH）／延床面積427.43m2（VC）、227.09m2（SH）
規模	地上1階
構造	鉄筋コンクリート造+鉄骨造＋木造
主な仕上	屋根：カラーステンレス瓦棒葺＋特殊非加硫ゴム付カラーステンレス一文字葺／外壁：化粧コンクリート打放、一部合津石貼り／床：地元産石埋込、地元産豆砂利洗出し／壁：コンクリート打放、一部合津石貼り／天井：岩綿吸音板
工事期間	1993年11月～1994年6月

古谷誠章（ふるやのぶあき）

1955年　東京生まれ
1970年　早稲田大学理工学部建築学科卒業
1980年　早稲田大学大学院修士課程修了
1980-83年 同大学穂積研究室助手
1983-86年 早稲田大学理工学部建築学科助手
1986年　近畿大学工学部建築学科講師
1986-87年 文化庁芸術家在外研修員として、スイス・ルガーノのマリオ・ボッタ事務所に在籍
1990年　近畿大学工学部助教授
主な作品
「早稲田大学本庄高等学院」「早稲田大学図書館本庄分館・考古学資料館」「狐ヶ城の家」

●中川建築設計事務所（熊本市）
代表者：中川久
主な作品
「玉名地域保健医療センター」「山田内科医院」「老人保健施設　光乃里」「住宅金融公庫南九州支店」
1987年　日本建築士事務所協会連合会大会会長賞